

典型的里地里山の選定手順を用いるにあたっての留意事項

国土の4割という広がりを考慮すると、里地里山の保全活用には重点的な取組が必要であり、このため地域ごとに典型的な里地里山の保全活用が確保され、そこを拠点に地域全体へ取組が波及していくことが重要であります。また、地域での重点的な取組が生態系ネットワークも考慮しつつ進められることにより、国土レベルでの生物多様性に寄与することも期待されます。

このような、典型的な里地里山の選定は、里地里山の多面的価値を考慮すると地域の合意の下で地方公共団体（都道府県や市町村）が行うことが適切であると考えますが、里地里山の保全活用に係る施策は、一部の先進的で熱意のある地方公共団体において進められていますが、一般的な地方公共団体にとっては立案の経験が少ないのではないかと考えられます。このような経験の少ない一般的な地方公共団体、とりわけ市町村が自らの地域において典型的な里地里山の選定に取り組むためには、あらかじめ選定の意義を明らかにし、選定の参考となる手順を丁寧に示すことが有用であると考えます。

本手順は、これを踏まえて典型的な里地里山を選定する手順の枠組みを、選定に取り組もうとする地方公共団体の参考となるよう示したものであります。これは、枠組みを設定して従うことを求めるものではなく、枠組みを提起して地方公共団体の皆様の主体的な取組を期待するものであります。

それではまずここで、選定の手順を示す前に、地方公共団体が手順を用いるにあたっての留意事項を示すこととしますので、別途示す選定手順と併せてご確認を頂き、ご利用頂ければ幸いです。

典型的里地里山の選定手順を用いるにあたっての留意事項

①里地里山の価値を守り、そして活かす

地域の里地里山は価値があるものです。今、その価値を守り（保全する）、活かす（活用する）ことが求められています。

里地里山の農林業、生活文化、景観、多様な生きもの、これらは、地域で育ち、暮らす人にとって、地域が自らの地域であるために欠くことのできない、愛着のあるものであるはずです。こうした里地里山の価値は、守ろうとしなければ失われてしまいます。

他方で、里地里山は産業や文化など豊かな恵み（生態系サービス）を生み出すものです。これらは、地域の人にとって慣れ親しんだものであるばかりでなく、他の地域の人にとっては新鮮で興味深いものであるかもしれません。自らの地域の里地里山を守るだけでなく、その価値を改めて見直すことで、地域を活性化していくための資源として活かすことができます。

守る 里地里山の価値の保全

- ・ 生きものと共生する農林業
- ・ 伝統的な生活文化やふるさとの景観
- ・ 地域の自然や生物多様性

活かす 里地里山による地域の活性化

- ・ 農林業を活力ある産業として育てる
- ・ 慣れ親しんだ生活文化を営んでいく
- ・ 地域の自然を観光、教育・体験の資源にする

②地域が自ら選ぶ「典型的な里地里山」

里地里山は国土全体でいえば約4割にも及ぶ広大な地域であるため、地域で里地里山を守り活かそうとするときにも、まずは重点を決めて取り組むのが効果的です。

「典型的な里地里山」は、地域において特に守り活かしたい里地里山を、地方公共団体（都道府県や市町村）が自ら選ぶもので、平成22年に環境省が策定した「里地里山保全活用行動計画」（4.（2）及び6.（5）を参照）において位置付けられたものです。「典型的な里地里山」を選ぶことによって、里地里山にかかわる地域の行政・民間の人材や資金を重点的に投じていくことができるようになります。



＜先進事例 福井県と越前市の取組＞

地域の中で里地里山を選んで、様々な主体の取組を重点的に投入していく試みは、既に始まっています。

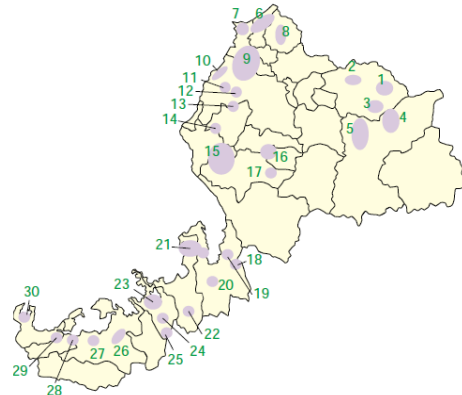
福井県 守り伝えたい福井の里地里山 30

福井県では平成 15 年度に県内の里地里山の生物調査を実施し、今も多様な生物がすむ代表的な地域を「福井県重要里地里山」として 30 か所選定しました。

【選定の考え方】

多様な生物がすむ代表的な地域という観点から、県レッドデータブックをもとに選定

- 県RDB種が多種確認されている地域
- 県RDB種の繁殖地、越冬地、県内唯一の生息地



出典：福井県自然保護センターWeb サイト
<http://www.fncc.jp/>

越前市 コウノトリが舞う里づくり構想（平成 23 年 3 月）

越前市では 3 ヶ所が「守り伝えたい福井の里地里山 30」に選定（上記地図の 15、16、17）されています。越前市にゆかりのあるコウノトリをシンボルとし、多様な主体が連携しながら、里地里山の保全再生とともに、農産物のブランド化や教育・体験活動を展開しています。

構想の3つの方針 ～3つの「S」～ コウノトリ(Stork)の「S」

(1) 里地里山の保全再生 (SATOYAMA Initiative)



- 希少生物、身近な生物の生息環境の把握
- 生態系の連続性の確保
- 外来種の駆除

(2) 環境調和型農業の推進と農産物のブランド化 (Sales promotions)



- 環境調和型農業の普及・促進
- 地産地消の拡大
- コウノトリをシンボルとした「越前市ブランド」の確立

(3) 学びあいと交流 (Study and communication)



- 学校における環境学習と自然体験活動の充実
- 里地里山の文化の保存・継承
- 先進地との交流、情報交換

構想の推進体制



越前市の環境調和型農業

越前市では環境調和型農業を推進しています。農薬・化学肥料の使用を抑えた同市産の県認証特別栽培米の作付面積は拡大しており、現在では県内の 4 割強を占めています。

特別栽培米の作付面積の推移

年度	H19	H23(見込)
越前市 (ha)	104	430
福井県 (ha)	434	1,005
割合 (%)	24	43

出典：越前市資料（生物多様性地方座談会 in 中部における発表資料）

②本手順のねらいと構成

本手順は、地方公共団体（都道府県や市町村）が自らの地域において「典型的な里地里山」を選ぼうとしたときに参考としていただけるような手順を示すこと、また、可能な場合には、その際に国が進めている「生態系ネットワーク」に配慮していただくことをねらいとしています。

このため、本手順は、以下のような点を重視しています。

地域ごとの視点によること

守り活かしていく里地里山の価値は、自然的・社会的条件によって地域ごとに異なっており、各地域の意思によって認められるものです。

本手順は、最初に「選定の視点」を定めることを置いて、各地域が里地里山に認める価値に基づく選定ができるようにしています。

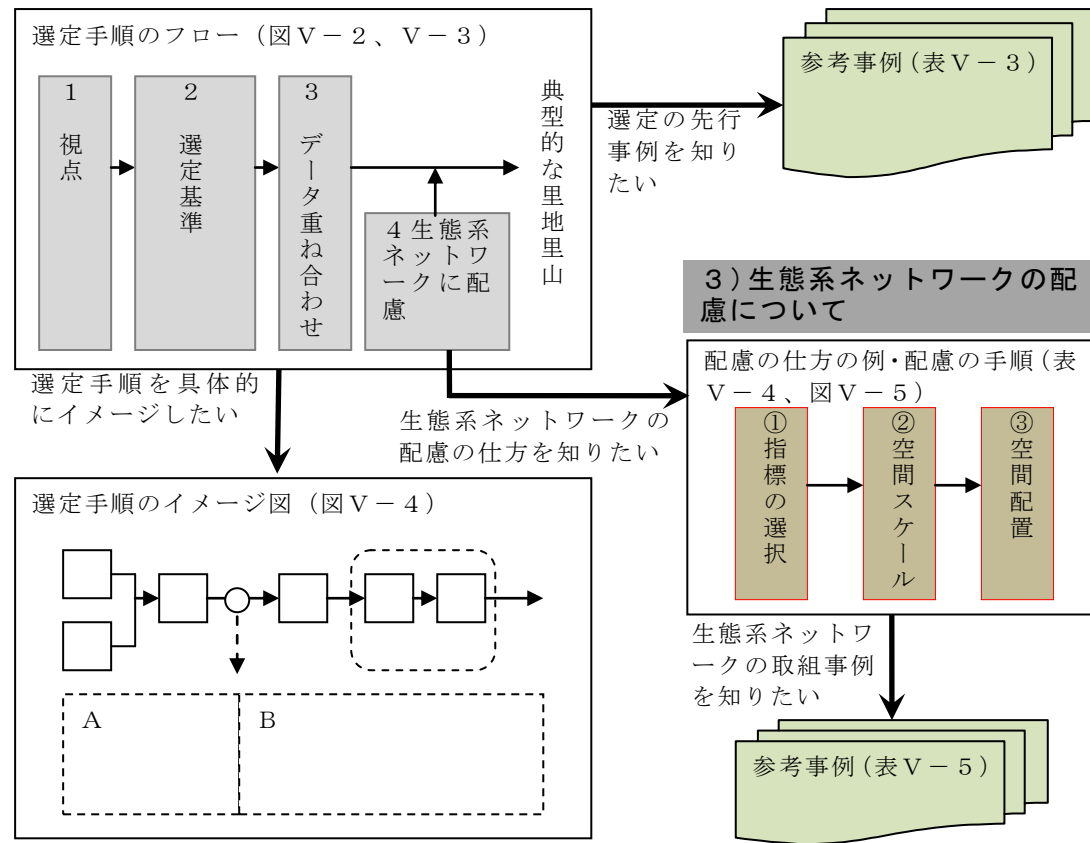
選定基準を明らかにして進めること

典型的な里地里山を選ぶときには、地域における合意形成が求められ、この際には選定の理由を客観的に説明できることが大切です。

本手順は、地域独自の「選定基準」やそれを表現するデータに基づくこととし、客観的な選定ができるようにしています。

以上のようなねらいに立って、本手順は以下のような構成となっています。地域の必要に応じて、各部（図V-2～V-5、表V-3～V-5）を、参考として利用してください。

2) 選定の手順



③地域の状況に応じた使い方の例

本手順は、あくまでも地方公共団体（都道府県や市町村）に主体的に取り組んでいただくための参考として、選定の枠組みを示したものです。もとより、この枠組みに従うことを求めるものではなく、現在の状況に応じて、例えば以下のように用いられることを想定しています。

